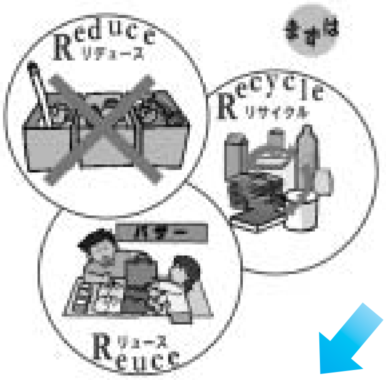
3Rとは?

「3R」は、ごみを出さないように工夫するためのキーワードです。



REDUCE（リデュース）

ごみを減らすこと、必要のないものは買わない

実践の例
- 買い物の時はマイバッグを持参し、レジ袋を断る。
- 過剰包装や不要な包装は断る。
- 買い過ぎないよう、いらないものは買わない。
- 洗剤・シャンプーなどは中身を詰め替えられる商品を買う。
- 長持ちするものを購入する。

REUSE（リユース）

繰り返し使うこと

実践の例
- 繰り返し使えるリターナブル容器の商品を買う。
- 電気製品や家具、おもちゃなどは大事に使い、壊れたら修理して使う。
- 古くなった洋服をリフォームしたり、雑巾に利用したりする。
- 不用になった服は友だちにあげたり、フリーマーケットに出したりする。

RECYCLE（リサイクル）

再び資源として利用すること

実践の例
- 資源となるごみの分別を徹底して、資源化しやすいよう、きちんとごみ出しする。
- スーパーなどの店頭回収（牛乳パック、食品トレーなど）に資源物を持っていく。
- 自宅でコンポストなどを利用して、生ごみを堆肥化する。
- 再生材を利用した商品を買う。

3Rを上手に実行するために

3つのR、リサイクル（再び資源として利用する）、リユース（繰り返し使う）、リデュース（ごみそのものを減らす）の取り組みには、望ましい順序があります。

第1はリデュースです。 製品を作ったり買ったりするときには使い終わった後に出るごみの量や質をよく考えて、環境への負荷の少ないものを工夫していく必要があります。ごみそのものを少なくすることが大事なのです。

第2はリユースです。 私たちの暮らしはさまざまな物やエネルギーを使うことによって成り立っています。問題はそれらの使い方です。一度使ったものをすぐにごみにはしない工夫、何度も繰り返して利用する心がけが必要です。

第3はリサイクルです。 私たちがリデュースとリユースに精一杯努めたとしても、最後にごみは生まれます。それをただごみとして捨てれば焼却する際や処分場に埋め立てた後に、大気、土壌、水系などに負荷を与えてしまいます。

できる限りごみを少なくするとともに、もう一度資源に戻して再利用していく工夫と努力が大切なのです。

ごみから再生されるもの

- 新聞紙を古紙回収に回す→新聞やマンガ雑誌
- いらなくなったペットボトル→化学繊維（トレーニングウェアなど）や卵パック
- 台所から出る生ごみ→肥料
- 牛乳パック→トイレットペーパー
- スチール缶→建築の材料
- エアコンや冷蔵庫→分解して銅や鉄などの資源を取り出すことができる。

アルミ缶の省エネ効果ってどれくらいなの?

2005年度に回収、再生地金とされたアルミ缶276、427㌧はボーキサイトから新たにアルミを造る場合に比べて35・26×10^9MJのエネルギーの節約になります。これは電力量に換算すると54・9億kWhになり、日本の全世帯数（4、953万世帯）の概ね11日分の使用電力料に相当します。

生涯学習課だより ～ゆるゆると行こう～ Vol.6

子どもと親と携帯電話

【携帯電話を取り巻く状況】

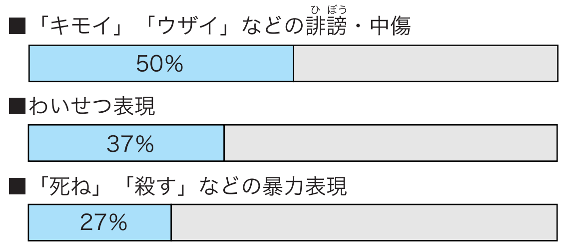
皆さんのご家庭では、お子さんに携帯電話を持たせていますか?携帯電話を持つ持たないで、お子さんと意見がぶつかり困ったという経験はありませんか?

「小・中学生の携帯使用を制限」といった報道もあり、あらためて携帯電話の使用が論議を呼んでいます。こういった意見が出てきた背景には、子どもたちが携帯電話のネット機能を利用して、事件を起こしたり、犯罪に巻き込まれたりする事例が数多く発生している現状があります。

最近は、携帯電話での利用が多いと言われる「学校裏サイト」(図1)の件数は3万8千件であるとの調査結果や、出会い系サイトへのアクセスの9割以上が携帯電話からといったデータが示されるなど、TVや雑誌等でも携帯電話の問題が頻繁に取り上げられています。学校や塾の帰宅時の安全を考えて、携帯電話を持たせる家庭も多いと思いますが、便利さの対極にある危険性も認識されるようになってきました。

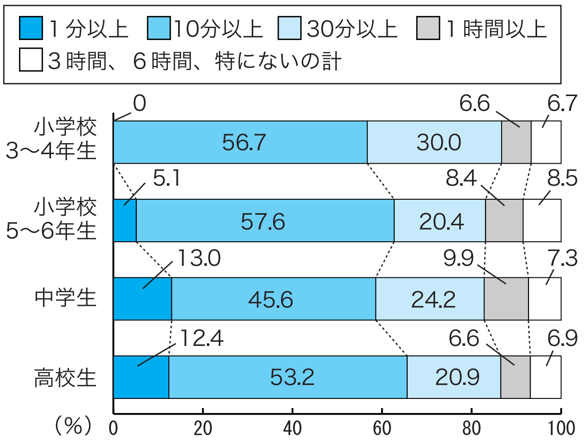
私たち親の世代の大半は携帯電話の機能はよく分からない、とりあえず連絡ツールぐらいの感覚ですが、子どもたちの感覚は親では理解しにくい部分もあるようです。メール返信までの時間ひとつをとっても、図2のような結果が出ているから驚きます。

図１　学校裏サイトには何が書かれているか？



朝日新聞（4月16日掲載記事）より引用
※裏サイトの2,000件の書き込み内容の調査結果

図２　これ以上時間がたつとメールの返信が遅いと思う間隔



モバイル社会研究所調査結果

【親の対応】

携帯電話の問題に関しては、さまざまな分野の人がそれぞれの立場で意見を述べています。ご覧になった方もいると思いますが、下野新聞に掲載された渋井哲也さんというジャーナリストの意見の一部を紹介します。

―子どもは、なぜネットに夢中になるのか。―

「子どもには自尊心を満たす避難所が必要。だが実際は、家庭では十分に話を聞いてくれず、学校では競争主義や対人関係にストレスを抱える。居場所のない子どもたちは、寂しさをネットコミュニケーションでいやし合う。逆に、いらいら感が裏サイトでの攻撃性につながる危険性もある。親は、こうした状況を理解し、子どもともっと話し合うべきではないだろうか」

皆さん、これを読んでどのように感じましたか。

子どもと「携帯電話」という道具との関わり方といった表面的な見方をすれば、規制が解決につながるようにも思えますし、実際効果も得られると思います。しかし、渋井氏の言うように、親と子の関わり方という普遍的な問題が潜んでいるということを見逃しては、結局〝いたちごっこ〟のような状態に陥るのではないでしょうか。

根本的な解決には、私たち親がどう子どもと関わっていくかを真剣に考える必要があると思います。

「危ないから」と頭ごなしに反対するだけでは、子どもたちは納得しないだけでなく、「大人は分かってくれない」という反感だけを募らせることでしょう。子どもと対等に話し合うために、携帯電話についての正確な知識・情報を獲得し、指導や説明ができる能力を大人自身が身につけなければなりません。

そして何よりも、先ほどの記事のように、自尊心を満たす避難所を求める子どもたちの心に気づいてあげることが大切です。親がその役割を担えば子どもたちは安心し、親と信頼関係を築くことができます。親との信頼関係が、子どもたちの自制心、責任感、判断力などを伸ばし、「携帯電話」を安全に使うことができるようになるとは考えられないでしょうか。

携帯電話の問題を通して、私たち親は、「子どもは何を求めているのか」「子どもと向き合えているか」今一度自分を見つめ直し、家庭の機能(避難所の役割)を取り戻す努力をしていきたいものです。